

日本写真学会・写真感光材料工業会主催 2018年度 PHOTONEXT 技術アカデミー

日本唯一最大スケールのプロと写真ビジネスのための展示会&セミナー『PHOTONEXT 2018』がパシフィコ横浜で開催されます。日本写真学会と写真感光材料工業会は、今年度も最新デジタルカメラの技術動向や映像表現についての技術アカデミーを企画しました。フォトビジネスに携わる皆様、企業・学術関係者、写真愛好家など幅広い皆様のご参加をお待ちいたしております。

主催：(一社)日本写真学会、写真感光材料工業会

後援：株式会社プロメディア

協力：(公社)日本写真協会、(一社)日本写真文化協会、(協)日本写真館協会、(一社)日本写真映像用品工業会、日本フォトイメージング協会

日時：2018年6月5日(火) 10:00~16:45 (受付開始:9:30)

会場：パシフィコ横浜 展示ホール 2F 会議室 E204

〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1

TEL 045-221-2166(交通案内) / 045-221-2155(総合案内)

交通：みなとみらい線：みなとみらい駅下車 徒歩約5分

JR・市営地下鉄：桜木町駅下車 徒歩約12分

参加費：全セッション通し；7,000円、セッションⅠ；3,000円、セッションⅡ；6,000円

(要旨集合含む) *参加費は当日会場でお支払いください。

定員：50人

申込方法：Web上のフォームからお申し込み下さい。

E-mail、FAXによる申込も可能です(氏名、所属、連絡先、会員有無を明記下さい)。

URL：<http://www.spstj.org> mail：spstj@pht.t-kougei.ac.jp FAX：03-3299-5887

申込締切：2018年6月1日(金) *定員になり次第締め切らせて頂きます。

【講演プログラム】

【セッションⅠ：最新デジタルカメラシステムの技術動向】

10:00~10:45

FUJIFILM 「X-H1」開発の狙いと搭載技術の紹介

富士フイルム(株) R&D 統括本部 光学・電子映像商品開発センター
高田 浩祐

2018年3月に発売したFUJIFILM「X-H1」の開発の狙いと、搭載した技術についてご紹介します。プロフォトグラファーとビデオグラファーをターゲットにXシリーズのフラグシップ機として「X-H1」を開発致しました。より厳しい撮影シーン・被写体に耐えられるように「X-H1」に搭載した技術としては大きく5点あり、以下詳細についてご紹介します。

①Xシリーズとして初搭載の「ボディ内手ブレ補正機能」、②大幅に性能改善した「オートフォーカス」、③ボディの「堅牢性」、④あらゆるシーンで撮影に集中できる「操作性」、⑤映像制作向け新フィルムシミュレーション「エテルナ」

11:00~11:45

「高画素×高速+多機能」を実現したD850の開発

(株)ニコン 映像事業部 開発統括部 第一設計部
馬島 章充

ニコンはレンズ交換式デジタルカメラ「D850」を2017年9月に発売しました。有効画素数4575万画素の撮像ユニットと最高約9コマ/秒の高速連写性能を搭載し、高画素化×高速化を実現。裏面照射型CMOSセンサーと画像処理エンジンEXPEED5の連携により、高感度でも鮮鋭感を保ちながら効果的にノイズを抑制し、ベース感度ISO64-25600の全域でダイナミックレンジの広い高画質を達成。また、4K UHD/30p 動画、サイレント撮影、フォーカスシフト撮影、ネガフィルムデジタル機能など様々な機能を搭載しました。多彩な機能で表現領域の拡大を目指した本製品の特長や魅力について、開発の狙い、製品コンセプトや新規機能などの技術説明とともに紹介します。

【セッションⅡ：映像出力技術と表現技術】

13:00~13:45

「カラリオ最高画質 Colorio V-edition EP-50Vの開発」

セイコーエプソン(株) プリンティングソリューションズ事業部 P企画設計部
松田 完

Colorio V-edition シリーズは多くの方に手軽に作品印刷を楽しんでいただくために開発したプリンターである。ClearChrome K2 インクと論理的色変換システム LCOS(Logical Color Conversion System) により、カラリオ最高画質を実現した。本講演では EP-50V を例に、進化した画質に加え本体のコンパクトさ、用紙対応性、低ランニングコストなど製品の魅力をどの様に実現したかについて説明する。

14:00~14:45

写真館における動画撮影のあり方と出力表現を考える

イメージバンクナカジマ株式会社 代表取締役・写心家
中嶋 秀磨

現在のデジタルカメラとは、成熟したように思える写真という静止画撮影に関しても新たな技術が投入されている上に、動画撮影に関する機能も向上してきています。その能力は現在主流の HD フォーマットはもちろん、次世代の動画フォーマットである 4K 解像度の撮影が可能な機種が増えています。私は、2020 年の東京オリンピックを境に、日本のリビングには 4K テレビが鎮座するであろうと考え、数年前より SONY のミラーレス 1 眼カメラを使い始めました。写真館として日々撮影をしていく中で、どのように 4K 動画を取り込んでいるのか、近未来に向けた私の表現について語ります。

15:00~15:45

デジタルカメラによるフィルムデジタイズのすすめ

写真家、写真技術研究家
山野 泰照

貴重な画像資産である銀塩フィルムの画像情報を、デジタルデータ化して活用したり将来に残すことは重要なテーマです。本講演では、デジタルカメラを用いたフィルムのデジタイズについて紹介します。デジタルカメラを用いたフィルムのデジタイズは、得られるデジタルデータが十分なクオリティを有しているだけでなく、作業そのものが簡単で楽しいことにも大きな特徴があります。ただし、フィルムの特徴や、カメラの機能を理解していないとフィルムに記録されている画像情報をあますところなくデジタル化することができません。今回はそういうノウハウを、できるだけ多くの事例とともに紹介いたします。

16:00~16:45

被写体&コンセプト別 撮影機材活用法

写真家
相原 正明

絵師や画家の人たちが作品にあわせて、絵の具や筆そして紙のサイズを選ぶように、これからのフォトグラファーは絵画のアーティストと同じようにしなければならないと思う。最高の作品を作りあげるには、最適な機材が大切だと考える。現在僕が展開している機材と作品を今回プレゼンしたいと考えます。

- 1 ランドスケープ FUJIFILM GFX50S & FUJIFILM X シリーズ
- 2 銀塩大判フィルムに迫るモノクロームの世界 Nikon D800E&Carl Zeiss Otus
- 3 超高感度が可能にする夜の鉄道 Nikon D5
- 4 非日常の世界超望遠域撮 LUMIX G9Pro
- 5 電子無音シャッターだからこそ撮れる伝統芸の世界 FUJIFILM X-T2&H1

* テーマ及び講師については、予告なく変更する場合がございます。あらかじめご了承ください。

【問合せ先】

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内 日本写真学会事務局

E-mail: spstj@pht.t-kougei.ac.jp Tel: 03-3373-0724 Fax: 03-3299-5887

〒106-0031 東京都港区西麻布 2-26-30 富士フィルム西麻布ビル 1 号館 写真感光材料工業会

E-mail: kanzai.aoki@mbr.nifty.com Tel 03-6419-7241 Fax 03-6419-7264